

議 事 録

- 1 会議名 東海市総合計画審議会全体会（第2回）
- 2 議題 (1)第1回部会での主な意見について
(2)第7次総合計画 総論・基本構想について
- 3 開催日時 令和5年（2023年）4月25日(火)午前10時から午前11時50分
- 4 開催場所 東海市役所 地下大会議室

5 出席者（敬称略）

委 員 学識経験を有する者 千頭 聡
学識経験を有する者 谷口 庄一
防災関係団体を代表する者 近藤 秋男
福祉関係団体を代表する者 鬼丸 義和
福祉関係団体を代表する者 中村 友美
教育関係団体を代表する者 片山 健児
教育関係団体を代表する者 下平 兼善
教育関係団体を代表する者 新海 保子
商工業者団体を代表する者 安藤 和明
勤労者団体を代表する者 松田 剛
青年団体を代表する者 蟹江 直矢
女性団体を代表する者 加藤 龍子
市議会の議員 北川 明夫
市議会の議員 蔵満 秀規
市議会の議員 井上 純一
市教育委員会の委員 久野 友士
市農業委員会の委員 森本 収
市内に住所を有する者 坂野 梨絵
市内に住所を有する者 山田 晋也

事務局 企画部長	成田 佳隆
企画部次長兼財政課長	加藤 浩
企画政策課長	内山 貴裕

企画政策課	統括主任	伊藤 純一
	主任	新海 俊介
	主事	今村 智世

6 欠席者（敬称略）

委員 学識経験を有する者 小嶋 真一郎
福祉関係団体を代表する者 久野 久行
高齢者団体を代表する者 吉田 隆幸
農業者団体を代表する者 近藤 功
商工業者団体を代表する者 森岡 厚喜
町内会、自治会等を代表する者 鈴木 加奈美

7 公開、非公開の別 「全て公開」

8 傍聴者の数 1人

9 会議内容

（次第1 開会）

事務局（部長）の会議進行により、東海市総合計画審議会全体会（第2回）を開会。

事務局より新委員紹介（敬称略）

- ・商工業者団体を代表する者 安藤 和明
- ・町内会、自治会等を代表する者 鈴木 加奈美

千頭会長の指名により、安藤和明委員を第2部会部会長に選出。

千頭会長からあいさつ。

（次第2 議題）

（1）第1回部会での主な意見について（資料1、資料2）

事務局（課長）から、第1回部会での意見と回答について説明。

<意見及び質問>

坂野委員；市民アンケートの対象者数について、総合計画は市民全員のものであり、3,500人のためでも2,500人のためのものでもないと考える。今は紙だけでなく、インターネットなど様々な媒体でアンケートに回答できる。まずは総合計画の目的やアン

ケートの趣旨を説明した上で、市民の方に納得してもらい、広くアンケートをとることが大切だと考える。

事務局(課長)；アンケートを実施する際には、趣旨を説明した文書等をつけてアンケートの協力をお願いしている。ホームページや広報にもアンケートの実施について掲載するなど、広く知っていただく努力はしてきたがなかなか浸透できていなかった。また、本市の人口規模でいえば 900 人弱にアンケートを送付すれば統計上は問題ない。しかし 900 人程度では、年代別、地区別などでクロス集計を行ったとき分析が難しいことや、広く様々な方からの意見を頂戴したいということを総合的に判断し、今回は 2,500 人に設定した。

総合計画の本来の意義を十分に認識してもらえていないことは反省点であり、策定後には様々な手段を使って広く理解していただけるよう検討する。

加藤委員；人口的には 900 人程度でもいいのかもしれないが、第 6 次総合計画のアンケートを実施するときから 3,500 人でも少ないと思っていた。東海市は他市町と比較してアンケートの回収率が高いと聞いているが、そこに満足してはいけない。アンケートの結果がどのように活かされているか理解してもらうことが重要であるため、アンケートに対する市民の意識こそが問題ではないか。

毎年同一世帯にアンケートが配布されることがないように、より多くの市民にアンケートに答えてもらえるように工夫することが行政の役割である。

また、アンケート指標の数について、第 6 次総合計画では 100 あったものが、第 7 次総合計画では 65 に減少しており、これがどのように今後影響してくるか。行政改革にあたり市民アンケートが根拠になる場面もあるため、事細かく取るなど、慎重に行っていただきたい。簡素化することだけが正しいとは思わない。

千頭会長；資料 2 の 4 ページにアンケート指標数を減らすこととなった背景として、「一部の市民から苦情が入った」と記載があるため、いかにも苦情があったから減らしたと受け取れる。それが短絡的ではないかという指摘にも繋がっているのではないか。

事務局(統括主任)；一部の市民の苦情により指標数を減らしているわけではなく、また、市民の負担軽減も考えて、統計学上、影響がない範囲で対象者数を減らしている。

アンケートは計画をつくる時だけでなく、計画の進行管理を行う上で過去 10 年間、毎年取り続けている。可能な限り多くの方に回答してもらえるようランダムでアンケートを送っているが、前年や前回回答された方には送らないように調整している。第 7 次総合計画でも同様に対応したいと考えている。

また、アンケートの簡素化については、6月の部会で指標案が掲載された資料をお見せする予定であるが、第6次総合計画のアンケート指標では、単純にアンケートの回答で「はい」または「いいえ」の数から数値を把握しているものが多い。しかし、大切なのは、「はい」や「いいえ」と回答した理由の部分であり、第7次総合計画では、アンケート指標の数は減っているものの、追加の設問を設け、回答の理由が詳しく分かるように設問を設定している。

森本委員；総合計画が根本的に市民に浸透していない。東海市をどのように良くしたいかを、地区毎の小さな単位で聞き取り、考えた方が良く考える。

事務局(統括主任)；先ほどの回答の補足で、アンケートの結果を、事業を進めるときや新事業を展開するときの参考にしていただきたいため、各課にフィードバックしている。

また、アンケート結果の報告書をまとめる際、年齢別や地区別でのクロス集計も行っており、地区単位での回答結果を分析することが可能となっている。それを各課にフィードバックすることで、次年度以降の予算編成や事務事業の実施内容に繋げてほしいという考えもあり、クロス集計もしながら進めているという状況である。

山田委員；近年、アンケートの実施方法が変わってきている。対応できる世代がいるかどうかは別として、アンケートに答えると東海市で使えるクーポンが貰えるなど、何か貰えるようにすれば、しっかりと考えられた回答が集められるのではないかと。前向きにアンケートに取り組んでもらえる方法を検討していただきたい。

千頭会長；QRコードを用いてアンケートを回答することは可能なのか。

事務局(統括主任)；第6次総合計画が平成26年から始まり、その前年からアンケートを実施している。集計方法を統一するため、これまでは紙媒体による回答のみであったが、令和3年度に実施した第7次総合計画を作成するための市民意識調査や、今年3月に実施した指標の基準値を取得するためのアンケートから、QRコードを読み取りインターネットにより回答できるようにしている。

千頭会長；アンケートをいかに活用できているかを市民が実感できれば、喜んで回答してもらえるのではないかと考える。そのため、アンケート結果がまちづくりにどのように活かされようとしているのか、市民にもっと積極的にフィードバックすることに引き続き留意できれば良く考える。

片山委員；多くの設問数のアンケートを実施すれば、正確なデータが取れるというのは当然のことと考えるが、アンケートは現在どの程度の回収率なのか。

事務局(統括主任)；年度によって少し変動するが、毎年 50%前後の回収率である。

片山委員；企業からのアンケートも含め、自宅に様々なアンケートが届く。市の総合計画など重要なアンケートなら答えようと思えるが、家庭の状況により忙しいなかで、設問も少なく、「はい」「いいえ」で答えられるアンケートであれば取り組みやすい。設問数を増やして正確なアンケートを取ることも大切だが、多くの人にアンケートを答えてもらうことも重要である。そのため、必ずしもアンケート指標数が多いことが良いというわけではなく、重要な項目が少ないのであれば、アンケート指標数も少なくても良いと考える。

近藤秋男委員；現在のアンケートの対象者について、年齢構成はどのように配分しているのか。

事務局(課長)；年齢については無作為で抽出、地区についてはバランスよく調査できるように調整している。

近藤秋男委員；年代によってものの考え方が変わってくる。若い世代はITの時代に対応できるが、高齢になると対応が難しい。高齢者の気持ちも、若い世代の今の時代に即応した考え方も行政に反映させることが大事ではないかと考えるか。

千頭会長；先ほど事務局から回答があったように、年齢別、地区別で集計結果を出している。第7次総合計画では、その結果をしっかりと市民にフィードバックできれば良いと考える。

北川委員；資料2の5ページにあるアンケート結果の誤差の範囲内という考え方は前回の部会でも指摘したので改善をしてほしい。

資料2の4ページに、単位施策では業務指標を中心に設定したとあり、アンケート指標の割合を下げるとなっているが、その理由は何か。また、5ページに、「まちづくり評価委員会」において、指標数値のみの判断にならないよう説明するとあるが、評価方法の見直しの考え方をもう少し具体的に教えてほしい。

事務局(課長)；業務指標の考え方について、単位施策は施策を推進する具体的な手段であることから、実施手段の進捗状況を数値で測れるよう、業務指標を多く設定するという考えである。また、評価方法については、指標数値だけでなく、他の複数の視点を踏まえた評価の仕方を、今後検討していきたいと考えている。

千頭会長；業務指標というと分かりにくいですが、アウトプットとアウトカムという言い方にすると分かりやすい。単位施策では、市が何を投入して何が生まれたかというのが業務指標、つまりアウトプットの指標を設定し、その結果、「市民がどの程度満足したのか」、「住みやすいと感じたのか」などのアウトカム指標を、上位である施策の指標として設定しようという理解でいいか。

事務局(課長)；そのとおりである。

千頭会長；具体的な指標案が分からないと議論が難しいので、次回の部会で実際に指標案が提示されたときに議論したい。

(2) 総論・基本構想について(資料3)

事務局(課長)から、第7次総合計画 総論・基本構想案について説明。

<意見質問>

片山委員；4ページの4「新たな感染症の発生・拡大への対応」は、行政に対して期待・関心がある項目の一つだと考える。2行目の「日常生活に甚大なインパクトをもたらす」の、「インパクト」はプラスとマイナスどちらの意味にもとれるので違和感がある。

また、4段落目に「引き続き新型コロナウイルスの・・・一層進める必要があります」という表現は前向きな姿勢を感じるが、最終行の「・・・社会システムの構築が求められます」の「求められる」は、受身的な表現に感じる。もう少し取り組みの姿勢や必要性を感じられる表現が良いと考える。

谷口委員；全体を通して言えるが、特に13ページの6「第7次総合計画におけるまちづくりの視点」の11項目は、東海市だからできるという部分をもっとあっていいと考える。東海市ならではと思える、わくわくする項目が一つぐらいあれば、他市町と差別化でき、年代に関係なく東海市の良さを感じられないだろうか。

近藤秋男委員；地震、台風などの重大な被害がこれから起きることを考えると、電気・水

道・ガスなどが一つの共同溝の中に設置されれば被害が少なく済むと考えるが、共同溝の整備については、当計画において進めていく予定があるか。

事務局(課長)；電線共同溝については、現在、東海市では太田川駅周辺と横須賀町の一部で既に整備済みである。今後は、緊急輸送道路に指定されている部分において、順次、無電柱化を進めていく予定である。

近藤秋男委員；南海トラフ地震や地球温暖化の影響を考えれば、共同溝は非常に効果的なインフラ整備であると考えている。

北川委員；片山委員の指摘にも関係するが、3、4ページの社会動向や、13、14ページのまちづくりの視点の記載について、状況を説明した後どのような認識で、どのように行動するのか述べるのが重要であり、述語が非常に大切だと考えている。「求められる」「望まれている」などの述語が使われているが、どのような考え方で使い分けがされているのか。

事務局(課長)；「インパクト」という言葉は「影響」という意味で使っている。直後にも「影響」という言葉を使っており、言葉が続くのを避けるため使用したが、違和感があるとご指摘をいただいたので修正を検討したい。また、コロナについての記載は、少し前の状況をもとにした記述になっているため、5月から5類感染症に移行することなども踏まえ、現在の実態に合った表現に修正したいと考えている。

まちづくりの視点については、市民が参加した会議等でキーワードを示していただき、それをもとに庁内でまとめて文章化したものである。記載内容を見ると他の自治体にも当てはまると感じるとは思うが、東海市独自の部分については分野別計画において、もう少し特色が出せれば良いと考えている。

「求められる」「望まれている」という表現については、意味合いとしては同じ考えで使用しているもので、言葉が続くことから表現を変えている。しかし、読む方によって捉え方が異なるというご指摘もいただいたため、ふさわしい表現に改めたいと考えている。

北川委員；まちづくりの視点について、語尾に「望まれる」と記載すると、施策を推進していくという強い意志が表れてこない。不登校対策やカーボンニュートラルなど前向きに進める必要があり、観光交流も各自治体が一生懸命推進していることであるため、強い意志を表せるよう見直しを検討してほしい。

蔵満委員；花田市長がゼロカーボンシティ宣言をされたということと、SDGsの取り組みが増えている中で、18ページの「五つの基本理念と都市宣言」の記載内容が第6次総合計画と大きく変わっていない。そのため、現在の動向を踏まえ、SDGsに関する項目を1項目入れるべきではないかと考える。

事務局(統括主任)；基本理念を市民に分かりやすく発信するために宣言したものが都市宣言であり、基本理念、都市宣言ともに、これまでに東海市で定めているものである。SDGsは認知度も上がっており、まちづくり全体を進めることと、SDGsの経済・社会・環境の三つの側面から持続可能なまちをつくっていくという考え方は合致しているものと考えている。総論・基本構想のなかではSDGsの視点を示していないが、基本計画のなかで新たにSDGsと総合計画の考え方を項目として記載する予定である。合わせてそれぞれの施策、単位施策がどのSDGsの目標と関連しているのか、他の自治体の総合計画よりも少し踏み込んだ形で表現できるよう検討しているところであり、具体的には、次回の部会で示したいと考えている。

蔵満委員；ただいまの説明で理解した。市の広報などで基本理念などは目にする機会があるものの、ゼロカーボンシティ宣言などはないため、市民みんなで真剣にゼロカーボンに向けて取り組むためには表記を付け加えることも検討できるのではないかと考え、意見させていただいたところである。

加藤委員；まちづくりの視点について、各視点とめざすまちの姿毎の分野が関係している旨、事務局から説明があった。市民に、より理解してもらうためには、まちづくりの視点と分野との関係性が分かるよう記載方法を工夫した方が良いのではないかと。

坂野委員；最終的には計画書として冊子になり市民は見ると思うが、計画の前段である総論・基本構想の部分は、あまり読まないのではないかと考える。そのため、見やすいようにイラストや箇条書きにするなど、わかりやすく書いた方が伝わりやすいのではないかと。

事務局(課長)；第7次総合計画も最終的には冊子になる予定だが、夏ごろに実施するパブリックコメントでは、概要版として、総論・基本構想をまとめた簡単なものも合わせて示す予定である。また、現状の案では文章ばかりで見にくいというご指摘だと思うが、最終的には第6次総合計画のようにイラストなども付け加えながら、見やすくしたいと考えている。加藤委員のご指摘については、まちづくりの視点と各分野との関係性が分かるような記載方法を検討したい。

山田委員；計画の概要版と本書を繋ぐ見せ方を検討していただきたい。概要版にインパクトのある言葉を使用すれば、それが入口となり、その言葉をきっかけに計画を深掘りしていく市民もいると考える。その際、概要版からQRコードなどでたどっていけば計画の詳細が分かるような、求めるものには開かれているといったところを意識して検討していただきたい。

千頭会長；総合計画は、総論・基本構想と基本計画で構成されているが、総論・基本構想はこれからどのような過程で策定されていくのか、簡単にご説明いただきたい。

事務局(統括主任)；先ずこれまでの過程として、令和3年度から行っていた「とうかい未来づくり会議」で出された市民からの意見などを参考にして、庁内で文章化を進めてきた。計画の骨格部分の検討を担うフレーム部会で検討したものに対し、次長級の策定幹事会、部長級の策定会議で議論を重ね、本日資料としてお示ししている。

今後は、本日いただいたご意見を中心に修正・検討し、策定会議や市長へ報告した後、6月議会全員協議会で総論・基本構想案を説明する。その後、7月中旬頃から8月中旬にかけてパブリックコメントを実施する予定である。パブリックコメントの結果を踏まえて修正したものを、10月の審議会全体会で再度提示し、承認をいただいて、最終の全体会での答申を踏まえ、12月議会で議決をいただきたいと考えている。その後は、今年度末を目途に、基本計画と合わせて計画書として冊子にしていく予定である。

千頭会長；次回の全体会では、総論・基本構想と基本計画が全部まとまった状態で、もう一度提示されるということか。

事務局(統括主任)；そのとおりである。

千頭会長；総論・基本構想はパブリックコメントにかけるということなので、さらに修正がされていくことになるかと考える。また、先ほど指摘のあった東海市らしさは大事かつ難しいところだと考えるが、可能な範囲で事務局は検討をお願いしたい。

(次第3 その他)

事務局(統括主任)から、次回の部会日程等について連絡。

第1部会…6月8日(木) 午前10時から 場所：市役所 地下大会議室

第2部会…6月6日(火) 午後2時から 場所：市役所 地下大会議室

<全体質疑>

北川委員；総論・基本構想における「めざすまちの姿」の記載内容は、本日の審議会で固まったということになるのか。

事務局(課長)；本日の審議会でとりまとめをいただき、6月議会全員協議会で報告する予定である。意味が変わらない範囲内で、誤解を招く表現は一部修正する可能性はあるが、基本的には現状の内容をもとに進めていく予定で考えている。

北川委員；例えば、子ども・子育て分野や環境・経済分野などに、東海市の特色として、もう少し力強い言葉があると良いと考えている。

千頭会長；審議会の部会で基本計画を議論するなかで、総論・基本構想に関係するご指摘が出る可能性もあるため、本日のものが一字一句確定というわけではないと考える。どのように意見を集約するのか。

事務局(課長)；基本的に記載の方向性は本日の会議で固めたいと考えている。文言の表現については、基本計画の議論のなかで意見が出てくることがあれば、反映していきたいと考えている。

千頭会長；現時点で、こういった考え方は入れるべきではないかななどの意見があれば、ご発言いただきたい。

北川委員；言葉の整理はできていないが、特に環境・経済分野について、産業都市である東海市にとって、新しい産業は市民の生活を支える基盤であるため、単に「商工業の活性化」だけでは内容が分かりにくい。また、東海市ならではの施策がこれで十分かどうか検討する場を設けるのはスケジュール的に難しいのか。

千頭会長；本日出し切れなかった意見については何らかの形で事務局に伝えていただきたい。またパブリックコメントで意見が出ることも考えられる。その両方を合わせた修正版について、8月後半にある第3回部会で少し議論し、その上で10月の第3回全体会で確定していくようにしたいが、事務局としてはどうか。

事務局(統括主任)；パブリックコメントは6月の議会終了後に実施する予定で、規約上1ヶ月間は期間を設けなければいけない。パブリックコメント終了後、8月の部会ま

でどこまでパブリックコメントの意見を資料でお示しできるかは庁内で調整をさせていただきたい。また、補足説明であるが、「めざすまちの姿」は前回の部会でもお示しをしており、3月議会全員協議会で骨子として報告したところである。

今後の部会での意見や、パブリックコメントの意見を踏まえて総論・基本構想を修正することはあるものと認識している。そのため、現時点で決まっている考え方としては、5つの「めざすまちの姿」と行政推進項目の分野で進めていくことであり、本日の審議会で記載内容の一字一句全てが決まるというわけではないため、基本計画の議論をしていただくなかで基本構想の「めざすまちの姿」も修正する可能性はあると考えている。

千頭会長；ご意見をいただく場面はいくつもあると思うので、遠慮なく伝えてほしい。

それを踏まえて、引き続き部会や全体会で議論していきたい。